

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2592200105		
法人名	株式会社Beスマイル		
事業所名	グループホームBeスマイル新旭		
所在地	滋賀県高島市新旭町安井川1丁目12-1		
自己評価作成日	平成25年 5月17日	評価結果市町村受理日	平成25年 7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成25年6月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

敷地が約400坪あり、その中に畑や外でくつろげるスペースが確保されているなどゆったりとして開放感のある事業所です。また建物も開設して2年と新しく、利用者が日中過ごすリビングは、吹き抜けになっているなど開放感があり、利用者がゆったりと生活して頂ける空間を設けた事業所です。その中で職員は、誰にでも笑顔で、又、利用者・家族にも不安を持たれないよう誠意を持って接している。特に利用者には、安心感をもってもらえる居場所となるよう仕事に工夫と努力をしている。再訪される様、過ごし易い空間作り・雰囲気作りにも努めている。ホーム内でも季節感を味わって頂ける様、ディスプレイにも工夫し、実際に戸外にも出掛けている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

近江商人の真髓とされる「三方よし」の自分、相手、世間、利用者、事業所、地域の相互関係に置き換え、「スマイルスマイルスマイル」なる理念を掲げている。理念を理解し実践するため、研修を含めて様々な試みを実践している。その一つとして社会保険労務士、行政書士の参加する「知的資産経営」を採用し、これに基づく介護人材育成研修プログラムによる研修を全職員が受講している。職員は、理念の奥深さを理解し、笑顔を失わないケアに努めている。入居者は食事や生活で、互いに助け合い感謝し合っており、自立しようとして過ごしている様子が見られる。広い敷地の維持管理に、雪かき、草むしりなどで、入居者家族の支援があり、職員は理念に盛り込まれた近隣との交流を深める努力を続けている。昨年度外部評価結果の課題について取り組み、目標達成に向けた成果が上がっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の知的資産を、社内研修で確認する中で、理念の意味するところを理解した。今後は、理念が事業にどのように生かされ、生かしていくのかを話し合い、深めていきたい。	“スマイルスマイルスマイル”と謳う理念は、入居者と家族、スタッフ、地域の人と介護サービス事業者の「三方よし」の思想を踏襲し、職員は研修や職員会議で理解を深め、笑顔を失わない介護に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所以来、地域との交流には至っていないが、近隣の方へのあいさつから、交流を広げていきたい。自治会には加入し、地域の情報は収集している。事業所の近くの方が働いて頂いているので、そういったところの関わりも大切にしたい。	自治会に加入し、地域から勤務する職員や運営推進会議メンバーを通じて、地域の行事の情報の収集に努めている。日常生活の挨拶が交流の起点と認識して、全員が付き合いを深める努力をしている。地域全般との交流は不十分である。	積極的に情報発信に努め、更に地域との交流が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が市の認知症ネットワーク会議に参加するなど、少しずつでも地域貢献できるように努力している。そういった活動を通して、身近な地域貢献が出来る様努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催できるようになった。その中で、日頃の活動内容を報告したり、課題を相談させて頂き、家族や行政からアドバイスを頂いている。	偶数月に開催し、事業内容の報告、課題についての討議、外部評価結果の報告と対応など、利用者も含めたメンバーで話し合っている。近隣との交流や、介護保険外サービスの運用等を討議している。	今後のサービス向上に活かすための取り組みと、職員も会議の内容を共有し得る議事録の作成に努めて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が認定更新の機会等に、利用者の暮らしぶりやニーズの具体を連携を深めている。事業主も市の担当課とは、連携が取れるように努力している。	日頃から行政窓口とは、手続きや情報交換、指導を受けるなど、交流を保っている。行政の主催する人権研修では、認知症の認識を深める講座を担当する等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、基本的な事は理解しているが、職員の少ない時等やむを得ない時には、安全性を考え一時的に施錠する時もある。	職員は内部研修で身体拘束をしないことの重要性を理解し、共有し実践している。見守り支援を基本にしてケアしている。保安対策上夜間のみ施錠し、玄関には通過センサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や、ミーティング等で再確認して日々のケアの中で常に虐待に値するか？を問い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中で、制度を利用している方がおられる。研修で今後理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の説明時には、特に契約解除の要件については、入院したら即契約解除等といった事はない等、利用者が不利益にならない事を伝え、安心して契約を結んで頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やそれ以外でも家族の方と会話をし、意見や要望を聞いて利用者の対応に生かしている。	家族との面会や、その他の機会ごとの対話を重視して、要望や意見の吸収に努力している。家族から、広い敷地の除草作業の申し入れなど協力関係ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議だけに留まらず、常日頃や特に問題が起こった時は、職員の気づきやアイデアを聞き出し参考にしながら、運営するように心がけている。	毎月の職員会議はケア会議を兼ねているが、職員は会議の席上意見や提案を自由に出し合っている。管理者との随時の個人面談も実施している。シフトや勤務時間の微調整などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員夫々の状況に応じて勤務体制を組み、勤務を継続できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、1年間を通じて、外部の講師を招いて全職員参加の社内研修を実施し、認知症に対する理解を深めたり、介護技術を学んだりするようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携の事業に参加し、視察や研修に参加している。また、市内の同業者との会議が定期的にあり、情報交換等を通じて連携が深まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、サービスの開始を受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞かせて頂くようにしている。話を聞くことで、落ち着いて頂き、信頼関係を築けるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によってはケアマネジャーや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、分かち合い、共に支えあえる関係作りに留意している。支援する側される側との意識を持たず、協働しながら和やかな生活が送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の会う機会を持つ為にも、定期受診や季節の衣類の入れ替え等、家族の意向に沿いながら互いの関係が切れないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の来訪時には、話やすい場所を提供し、また本人が、出かけられるよう支援している。	来訪者とは居間や居室で気兼ねなく話し合える環境づくりに努めている。友人や家族との電話交信の支援、美容院など馴染の場所へ赴くときの送迎支援も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間については、職員が調整役として中に入ったりする。また、性格の合わない利用者間は、席を工夫するなどしてトラブルが少なくなるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心掛けている。今までの関係を大切に、家族からの要望があれば終了後も支援に努めていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	フェースシートは、入居前のケアマネジャー作成の様式を援用し、入居後の本人の態度や表情、会話などから得た情報は追記して、かつ連絡ノートにも記載して職員間で共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の訪問時等に生活歴や好み、暮らし方を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の日々の状況把握に努め、持てる力を生かし支援する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、本人の思いや意見を聞いたり、家族や関係者(医師、訪看)の意見を聞き、会議などで話し合い、本人がより良く暮らすためのケアに生かすようにしている。	管理者は、介護担当者、本人、家族、かかりつけ医の情報を取りまとめ、毎日のモニタリング結果を総合して、3ヶ月毎に見直しを行い、入居者に変化があれば随時見直しして、家族に説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、血圧や体温、排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉やエピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を結ぶように努めている。	入居前のかかりつけ医を継続し、協力医、毎週の訪問看護の情報は、家族、事業所とともに共有している。家族が対応できない通院受診には、職員が代行して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携を結んでおり、週1回の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。緊急時は、電話相談にも応じて貰い、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病状を把握し、本人の支援方法等に関する情報を医療機関に提供している。また、医療機関や本人・家族と連携をとりながら、早期退院出来るように対応していきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに対する指針」を作成し、家族との同意書も作成している。現在、対象者がいないが、その時が来たら柔軟に対応していきたい。	医療連携加算体制を採用し、「看取りに関する指針」を作成し、家族との同意書も文書化し、契約時の利用者及び家族への説明をし、考え方を共有する体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習などの全員受講を進め、備えていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域避難所への避難訓練は実施した。今後は消火・通報訓練実施の計画をしている。	災害発生時にも対応し易いように、避難経路となる廊下を広くし、玄関、裏口、非常口に移動しやすいように、居室を配置している。日頃から避難訓練と散歩を兼ねて、地域の避難場所へ赴いている。	防災マニュアルの作成と周知、夜間想定を含め消防署、地域住民の参加を伴う避難訓練を実施して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけないように、さりげない言葉かけや対応に配慮するように努めている。援助が必要な時もまずは、本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	入居者夫々の性格を熟知して日頃の介護に努めている。職員は、入居者に接する態度や言葉かけに留意し、誇りやプライバシーを損ねない支援介護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者と過ごす時間を通して、利用者の希望、関心、嗜好を見極めるように心掛けており、それを基に日常の中で本人が選びやすい場面を作れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行きたいところへ外出(自宅や買い物等)したり、本人のサインを読み取り、休息場面を作るなど個別対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は、本人と共に行っている。整髪等に関しては、馴染みの理美容室に行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に料理を作ったり、片付けを行っている。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る雰囲気作りも大切にしている。食事の配膳下膳が出来るように支援している。	食事は時間を決めるのではなく、準備が出来次第という一般家庭に倣っている。入居者夫々の能力に応じて、下拵えや配膳、下膳をしている。職員も同じ食事を摂り、共に談笑しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に、個々の活動量・摂取量・好みに応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝前に口腔ケアを実施している。昼食後には、必要に応じて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に、本人の生活リズムに添ったさりげない誘導支援をしている。また、失敗しても本人が傷つかないよう精神面の配慮や周囲にも気を使って対応している。	パッドなどの介助用品を使っているが、全員が見守り支援のもと、夜間もトイレでの排泄を行っている。失敗時の尊厳を失わない適切な対応、排泄パターンを把握した誘導で自立の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分補給や乳製品の飲用、繊維質の摂取および運動を促している。便秘や下痢になった場合、医師と相談し、下剤・整腸剤等で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では、入浴の曜日・時間を決めて行っているが、希望があれば対応できるようにしている。	入居者の希望を優先した入浴を重視して、冬季は週2回、夏季はシャワー浴も含めて、週2～3回が基本的な入浴である。足浴、入浴剤の使用で変化をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの体調や表情、希望を考慮し、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録には必ず目を通し、会議で伝達し薬の準備・配薬は別の職員が行い、間違いがないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の世話、キッチンの手伝い、洗濯干し・片付け等それぞれに合ったことを出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じ、散歩・買い物・理美容の為の外出を支援している。	日常的な外出は、本人の希望を優先し、また誘導の場合も含めて、地域の避難場所まで出かけていて、災害避難時に備えることにもつながっている。入居者個人の好みに応える買物に同道している。花見や、初詣、お寺での餅つきなどにも出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の買い物は、事業所の立替で行うようにして現金を所持しない形をとっているが、本人の希望がある場合、ご家族と相談して少額所持して頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されたら電話や手紙などの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁面に季節を表現したり季節感を感じて貰える様努めている。トイレの流し忘れや汚れの確認を怠らず、気持ちよく利用できるように努めている。	居間は梁が露出した高い天井の吹き抜け構造で、天窓と広い開口の窓で室内は明るく清潔である。台所から居間と廊下全体が見通せる。壁には職員との共同作業で作った貼り絵や折り紙を飾り、季節の変化を感じさせる装飾に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたり、ホールにも大きなソファがあり、一人で過ごせる居場所や仲の良い人と会話出来る場所もある。また、戸外にもベンチがあり気分転換も図れる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたベットや布団、家族の写真などを置き、居心地良く過ごせる工夫をしている。	居室はフローリングの上に畳を敷き、ふとんやベッド等を持ち込み使用している。造り付けのクローゼットがあるので、タンス類の持ち込みはなく、和机や水屋等を持ち込み個性のある個室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に生活できる様手すりを設置。居室やトイレ等、場所が分かる表示をしたりして自立に向け支援している。食堂のイスとテーブルを安全性の高いものになっている。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	防災マニュアルの作成と周知。消防署、地域住民を伴う避難訓練が出来ていない。	消防署との連携の上、夜間想定も含め避難訓練を行う。	訓練計画を基に、避難訓練行い、また、地域の防災訓練への参加を試みる。	12ヶ月
2	2	地域との交流があまり出来ていない。	近隣の方々とは顔見知りとなってきたので、地域全体に溶け込みたい。	地域の行事ごとに積極的に関わられるようにしていきたい。	12ヶ月
3	3	運営推進会議において、記録はあるが、正式な議事録は作成出来ていない。	議事録の作成に取り組む	主催者で手分けして議事進行の様子を書き取ることから始めたい。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。